

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ~ 平成30年3月16日
調査研究事項	【堺市立殿馬場中学校】 エ、外国籍の者に関すること
調査研究のねらい	<p>殿馬場中学校夜間学級には200名の生徒が在籍しており、その年齢層は10代から90代までと幅広く、外国籍の生徒は全体の約76%で、国籍も様々である。「あいうえお」の学習から始める必要のある生徒も多数在籍しており、日本語の習熟度の低い生徒に対して個に応じた日本語の指導や教科指導の充実を図ることが課題である。夜間学級の教科指導や外国人生徒等教育を通じて、社会に円滑に適應する力と必要な知識・技能が習得できるよう、指導方法や教材作成等について研究し、生徒の社会的・経済的な自立をねらいとする。</p> <p>様々な年齢や国籍、生活環境で生活する生徒が集まっている現状の中で、コミュニケーション等に関するあり方について研究し、生徒間の良好な人間関係の構築をねらいとする。</p>
調査研究の成果	<p>< 生徒の日本語習熟度向上のための取組 ></p> <p>〔通年〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の日本語習熟の向上にむけ、学年の枠を超えて7つの習熟度別クラスに分け、少人数指導による個に応じたきめ細かな指導を実施した。 ・使用する日本語習熟度別テキストは、生徒の実生活に必要な日本語を取り上げた教材となるようにした。これまで作成してきた教材の効果について、毎月検討する機会を設けて意見交換を行い、改訂をすすめた。また、今年度購入した図書も教材作成の際に活用し、わかりやすい教材作成と授業づくりに努めた。 ・教材検討の際には、生徒一人ひとりの日本語の習得状況について、全教員で情報交換・実態把握を行うことで、よりよい教材作成につなげることができた。 ・少人数の習熟度別授業を、生徒の日本語習熟度に応じたテキストを用いて実施することにより、生徒は学習意欲を向上・維持させることができた。 <p>〔各学期に1回〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿夜間中学校協議会の研究部会において、日本語指導の教材作成を行っており、本夜間学級から教材を提供した。

- ・他府県市の教員と教材開発や指導方法について情報交換を行い、日本語指導の具体的な取組に関する情報を得ることができ、本学級での自主教材作成に生かすことができた。

〔～3月〕

- ・年度末に「生徒作文集 あしあと」を作成し、日本語学習のまとめとした。毎年作成している作文集なので、昨年度のものと比較して読むことで、自分自身の成長を感じる機会となっている。また、教員による作文分析により、年度末段階での生徒の日本語習熟度を把握し、次年度の学習指導につなげるようにしている。

<生徒と教師、生徒同士のコミュニケーションを深めるための取組>

〔通年〕

- ・生徒一人ひとりの状況に配慮しながら、学校生活や家庭生活の支援を意識した対応を心がけ、電話連絡や家庭訪問をこまめに行った。また、外国籍の生徒が多い状況から、教員自身が中国、ベトナム、ネパールなどの言語習得に取り組み、生徒とのコミュニケーションを図り、生徒同士をつなぐような声掛けを行うように努めた。

〔6月、2月〕

- ・教育相談を実施し、学校生活面や学習面だけでなく、人間関係や日常生活等について、不安感や困り感がないかを聞き出し、生徒に寄り添うようにした。その際、日本語習熟度の比較的低い生徒に対しては、通訳をつけて実施した。

〔11月〕

- ・文化活動発表会を本校講堂にて実施し、国語や社会、理科等、各教科で学んできた内容を日本語で発表した。生徒は、発表会に向けて学習に意欲的に取り組み、当日は大勢の前で発表することで自信をもつことができた。発表後は、より積極的に学習に向かう姿が見られた。

〔1～2月〕

- ・近畿夜間中学校連合作品展に向けて、個人作品及び共同作品を制作し、出展した。共同作品は「ふくろうの階段アート」を制作した。生徒同士で協力して制作することにより、生徒の協調性を養うことができた。

〔2月〕

・生活習慣や価値観が大きく異なる中で、異文化に対する理解と共感を高め、生徒相互のコミュニケーションを円滑にすることを目的に二胡演奏者 楠田名保子様、シンセサイザー演奏者 岸谷宏茂様を招いてミニコンサートを開催した。日頃、言葉によるコミュニケーションが難しい生徒も、音楽によってつながり、楽しい時間を過ごすことができた。また、ミニコンサート後は、それまで以上に音楽の授業への意欲、関心が増し、生徒同士が声をかけたり、教え合ったりする姿が見られ、生徒間の良好な人間関係が構築された。

< 成果研究の課題 >

- ・日本語習熟度別テキスト等を活用しながら生徒の日本語習熟の向上をめざして取り組みを続け、少しずつ力がついてきている。その一方で、日本語がある程度理解できるようになると、遅刻・欠席が増える生徒がでてくるのが課題である。日本語の学習だけでなく、他の教科指導においても授業改善を図り、生徒のモチベーションが上がる授業づくり・学級づくりに取り組む必要がある。
- ・年齢、国籍、言葉等の壁があり、人間関係づくりには今後も課題があると考えている。日々の授業や行事等で、意図的に生徒同士がコミュニケーションをとる場面を設定するなどし、より良好な関係構築のために取り組みをすすめていく。
- ・教育相談等の場面で、通訳者の少ない言語または通訳者のいない場面において意思疎通が図りにくい課題があり、コミュニケーションツールを増加させる取り組みをすすめていく必要がある。